

真偽問題

正しいものは①、正しくないものは②にマークしなさい。

①、②以外を塗りつぶすと誤答になります。

- 問(1) 完全4度は、半音5個分の音程である。
- 問(2) ハ長調の属調は、ヘ長調である。
- 問(3) ピアノ曲「幻想即興曲」の作曲者は、ショパンである。
- 問(4) ピアノの連弾とは、2人以上の演奏者が、それぞれ1台ずつ演奏することである。
- 問(5) 唸りは、音の回折という性質に起因する。
- 問(6) ピアノの弦の総張力は、およそ 20 トンである。
- 問(7) ピアノの張力を主に支えるものは、支柱とフレームである。
- 問(8) 鍵盤板に用いられる樹種に、スプルースやトウヒがある。
- 問(9) 1台のピアノの中では、センターピンの番手は1種類に統一されている。
- 問(10) アップライトピアノの平均的な総重量は、およそ 300 kg である。
- 問(11) ピタゴラスコンマは、ピタゴラス音律における異名同音の差である。
- 問(12) 低音部の調律検査音程として、長3度ー短6度の比較が行われる。
- 問(13) ピアノ調律では、最高音域は半音の1/2以上高めの調律カーブになる。
- 問(14) 完全5度の音程比は、2:5である。
- 問(15) 37A 付近では、1Hz が約8セントに相当する。
- 問(16) ブライドルワイヤー左右の調整工程は、ワイヤーの上部を曲げて調整する。
- 問(17) マフラーの調整は、マフラーペダルを踏んだ状態で、ハンマーがマフラーフェルトの下から1/2を打つようにする。
- 問(18) グランドピアノで、打弦距離(ハンマーストローク)を変更しても、ハンマー接近(レットオフ)は変化しない。
- 問(19) アップライトピアノのダンパー総上げは、スプーン掛け(ダンパー始動点の調整)に先立って調整する。
- 問(20) アップライトピアノのハンマーストップ(バックストップ)調整で、ハンマーが2度打ちしても、寸法があっていれば問題はない。
- 問(21) ミュージックワイヤーNo.19とセンターピン No.19は、同じ太さである。
- 問(22) アルミ製のレールで、ネジが緩くなった場合、オーバーサイズのネジに交換する。
- 問(23) ブライドルテープの交換修理には、キャッチャーを抜いて接着する方法や、キャッチャー裏に接着する方法などがある。
- 問(24) ハンマーシャンクが折れた時の修理では、ハンマーヘッドは、元のものを使用するのが望ましい。
- 問(25) 消音ピアノのハンマー接近(レットオフ)は、調整してもあまり意味がない。

多肢択一(3択)問題

各問から、適切なものを1つ選びなさい。2つ以上選ぶと誤答になります。

問(26) 49A を楽譜上で表すとき、正しいものを1つ選べ。

1. 高音部譜表(ト音記号の楽譜)で第3間
2. 高音部譜表(ト音記号の楽譜)で第2間
3. 低音部譜表(ヘ音記号の楽譜)で第5線

問(27) 次の記述の中から正しくないものを1つ選べ。

1. ピアノ協奏曲「戴冠式」は、ブラームスの作曲である。
2. ピアノ協奏曲「皇帝」は、ベートーヴェンの作曲である。
3. 「G 線上のアリア」は、バッハの作曲である。

問(28) 音波の説明として、正しいものを1つ選べ。

1. 音波の振幅は、音の高低に影響する。
2. 音波は縦波として空気中を伝わる。
3. 音波の波長が長くなると、空気中を伝わる速度が速くなる。

問(29) ブロードウツのペダル特許に関する年を1つ選べ。

1. 1783年
2. 1800年
3. 1821年

問(30) ピアノの使用環境について、最も適切なものを1つ選べ。

1. 床暖房が、ピアノにとっては最適な暖房である。
2. 設置に際しては、壁に密着させない。
3. 湿気が大敵であり、湿度が低いほどピアノの狂いが少ない。

問(31) ピアノの弦について、正しいものを1つ選べ。

1. ミュージックワイヤーの太さは番手で表示され、17番手の直径は、0.975mmである。
2. ピアノ1台では、約300本の弦が張られている。
3. ミュージックワイヤーの素材は、鋼鉄から炭素を取り除くことで、抗張力を高める。

問(32) 有効弦長について、正しいものを1つ選べ。

1. チューニングピンからアグラフまで
2. 駒からベアリングまで
3. チューニングピンからヒッチピンまで

問(33) 響板について、正しいものを1つ選べ。

1. 弾力性に富み、比重の大きい樹種が用いられている。
2. 柁目になるように木取りする。
3. 厚みを変えることにより、反り(ムクリ・クラウン)が生まれる。

問(34) 音速について、正しいものを1つ選べ。

1. 音波が空気中を伝わる時の速度は、常に一定である。
2. 空気と水とスプルースでは、音波の伝播速度はスプルースが最も速い。
3. スプルースの音の伝播速度は、約3, 500m/s である。

問(35) 音律に関する記述として、正しいものを1つ選べ。

1. 純正調長音階の主和音の長3度は、384セントである。
2. ミーントーンの完全5度は、純正である。
3. ピタゴラスコンマとは、純正5度を12回繰り返すことによって生じ、24セントである。

問(36) 平均律割り振りについて、正しいものを1つ選べ。(基音は 37A、音域は 33F-45F とする)。

1. 37A-42D の唸りが基準より少ない場合、42D は高めにずれている。
2. 33F-45F のオクターブが正しい時、33F-38A#の唸りと 38A#-45F の唸りの速さは一致する。
3. 37A-44E の唸りが純正の場合、44E は低めにずれている。

問(37) 音を半音上げた際の弦の張力について、適切なものを1つ選べ。

1. 張力は、約2倍になる。
2. 張力は、約 1.06 倍になる。
3. 張力は、約 12%高くなる。

問(38) 調律カーブについて、正しいものを1つ選べ。

1. 一般に、大型のピアノの方が小型のピアノより、カーブが緩やかである。
2. 低音部の方が、中音部よりカーブが緩やかである。
3. 低音部は理論値より高く、高音部は理論値より低くなる。

問(39) 1オクターブ長3度(長10度)の正しい音程比を、次の中から選べ。

1. 2:5
2. 3:5
3. 4:5

問(40) カラ直し(ロストモーション)調整について、もっともふさわしいものを選べ。

1. 打弦距離(ハンマーストローク)を調整する工程である。
2. ジャック先端とバットスキンの間隙を調整する。
3. レギュレチングボタン(スクリュー)とウイペンヒールクロスの間隙を調整する。

問(41) ハンマー接近(レットオフ)の調整の説明として、もっとも適切なものを選べ。

1. ハンマー接近(レットオフ)が狭いほど、連打・発音ともに有利になる。
2. グランドピアノのハンマー戻り(ドロップ)を変更しても、ハンマー接近(レットオフ)は変化しない。
3. 低音から高音まで、均一の2mmが調整寸法である。

問(42) アクションの整調工程として、最も関連が深いものを選べ。

1. ハンマー戻り(ドロップ)とハンマーストップ(バックストップ)
2. 鍵盤深さ調整(あがき)とハンマーストップ(バックストップ)
3. 打弦距離(ハンマーストローク)とハンマーストップ(バックストップ)

問(43) アップライトピアノの連打性能を回復する調整で、正しいものを1つ選べ。

1. ハンマー接近(レットオフ)が広い状態を修正する。
2. ソフトペダルの遊びを小さくする。
3. ダンパーペダルの遊びが多い状態を修正する。

問(44) タッチについて、正しいものを1つ選べ。

1. ダンパーによる止音は、鍵盤の深さを約1/3戻した位置で止音する。
2. 鍵盤の深さは、すべて10mmに統一されている。
3. グランドピアノの連打性能(1秒間の同音連打回数)は、アップライトピアノの約2倍である。

問(45) 断線修理に関する記述として、正しいものを1つ選べ。

1. 断線は、弦の不良ないし錆であるため、弦を交換すれば切れなくなる。
2. 断線を繰り返す場合は、半番手細い弦を張ると切れなくなる。
3. 断線の主原因は、弦の金属疲労である。

問(46) アップライトピアノの部品交換にあたり、全面を接着するものを1つ選べ。

1. ダンパーレバークロス
2. バットフェルト
3. バックチェックフェルト

問(47) ペダル交換修理について、正しいものを1つ選べ。

1. 交換修理後、ペダル調整の必要性はない。
2. アップライトピアノでは、底板を外す必要がある。
3. グランドピアノでは、ペダル箱の底板を外す。

問(48) 修理に関する記述として、正しいものを1つ選べ。

1. 市場におけるピアノ修理に使用する接着剤は、木工用ボンド1種類で対処できる。
2. ハンマーフレージに割れが有る場合の症状として、視覚上はハンマーの左右ブレ、聴覚上は雑音や音量・音色の不ぞろい等が確認できる。
3. アップライトピアノで特定の鍵盤で音が出ない場合は、ハンマーシャンクが折損している。

問(49) 工具について、正しいものを1つ選べ。

1. 弦の三割り工具の間隔は、アップライトピアノ用とグランドピアノ用では異なる。
2. 音叉は一度調整すれば、振動数を一定に保てる。
3. センターピンと弦を切るカッターは兼用できる。

問(50) 消音ピアノと自動演奏ピアノの点検・調整の記述で、適切なものを1つ選べ。

1. 調律時には、必ず消音状態でヘッドフォンを使用し、電子音の発音とペダルの効果を確認する。
2. 生ピアノの調整以外は、特に指摘がない場合は触らない。
3. 消音型のアップライトピアノのハンマー接近(レットオフ)は、生ピアノと同じ調整にする。